

令和6年度「高校生等防災教育基礎講座」実施状況

1. 実施概要

令和6年度は、県立高等学校7校、私立高等学校1校、特別支援学校1校の計9校で、実施しました。

内容は、防災に関する講演（講師派遣）を基本とし、加えて模擬体験を実施しました。



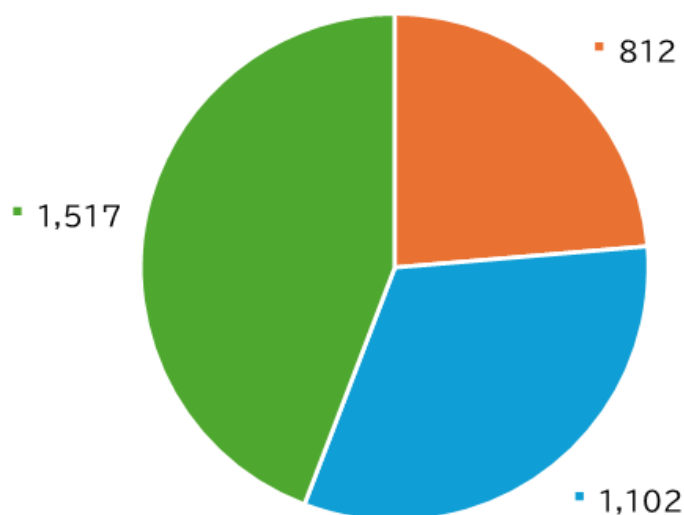
【実施校】

No.	実施日時	実施校・生徒数	演 題・講 師
1	5月25日(木) 13:05～15:40	県立銚子高等学校 (1年生)	「震災用語、ハザードマップの活用方法及びローリングストックについて」 千葉科学大学 藤本 一雄 氏 ※起震車体験を実施
2	9月2日(月) 9:45～10:15	県立四街道北高等学校 (全学年)	「震災時に学校が避難所となった際の初動、及び災害への備えについて」 千葉科学大学 藤本 一雄 氏
3	9月6日(金) 13:05～14:00	東海大学付属市原望洋高等学校 (全学年)	「いざというときの対応力向上について」 減災・福祉パートナーズ 蓮本 浩介 氏
4	9月10日(火) 10:00～12:00	県立富里特別支援学校 (高等部1年生)	「地震や津波発生のメカニズム、及び災害発生時の対応と備えについて」 減災・福祉パートナーズ 蓮本 浩介 氏 ※起震車体験を実施
5	10月10日(木) 13:25～15:00	県立長狭高等学校 (1年生)	「高校生ができる防災への取組と災害時にとるべき行動について」 減災・福祉パートナーズ 蓮本 浩介 氏 ※煙体験を実施
6	10月24日(木) 17:45～19:20	県立東金高等学校定時制 (全学年)	「高校生ができる防災への取組・心得について」 減災・福祉パートナーズ 蓮本 浩介 氏 ※起震車・煙体験を実施
7	10月30日(水) 10:55～11:45 10月31日(木) 10:55～12:00	県立野田中央高等学校 (1・3年生)	「災害発生後、帰宅困難時における身の安全の確保や、学校での待機時における地域の避難者との連携や協力について」 減災・福祉パートナーズ 蓮本 浩介 氏 ※起震車・煙体験を翌日実施
8	12月18日(水) 9:00～11:10	県立清水高等学校 (全学年)	「高校生ができる防災への取り組みや、一部生徒が取得している小型車両系建設機械の資格を活用した被災時・復興時の活用事例について」 減災・福祉パートナーズ 蓮本 浩介 氏 ※煙体験を実施
9	12月19日(木) 9:00～11:10	県立磯辺高等学校 (全学年)	「防災に関する基本的な心構えと行動及び津波や高潮を想定した避難と日頃の備えについて」 減災・福祉パートナーズ 蓮本 浩介 氏 ※煙体験を実施

アンケート結果

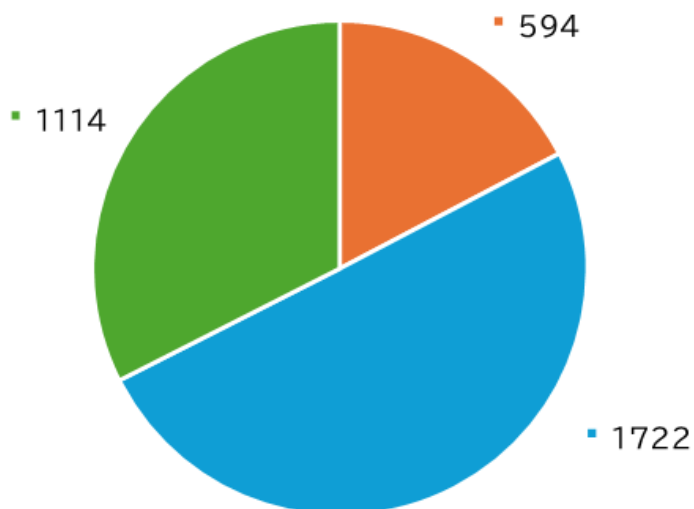
「高校生等防災教育基礎講座」の参加者に対して、日常からの防災対策及び東日本大震災後の災害に対する意識を問うアンケートを実施しました。

1. あなたの家庭では、寝ている時に地震が起こった場合、体の上にもものが倒れてきたり落ちてきたりする危険はありますか？



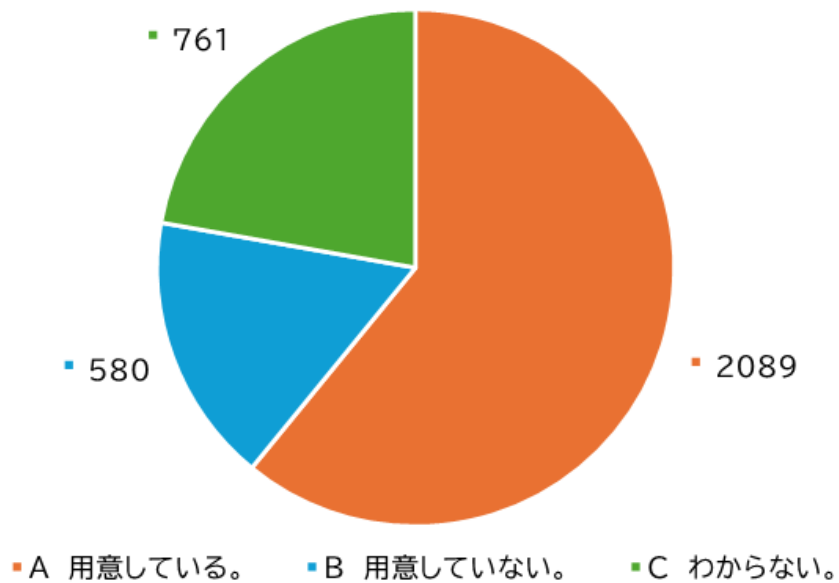
- A 家具などは固定しており、安全である。
- B 家具などは固定しておらず、危険がある。
- C ものが倒れたり落ちたりしても安全な場所に寝ている。

2. 東日本大震災の起きた当日は、各交通機関が止まり、遠くから通学している人は帰宅困難になりました。また、電話も通話が集中し、つながりにくくなりました。家族と離れている時に災害が起きた場合、集合場所や連絡方法を決めていますか？

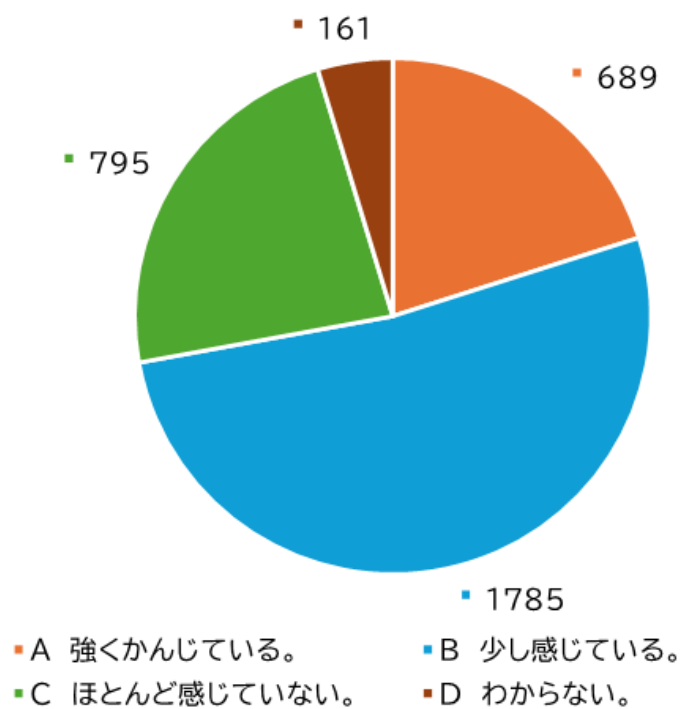


- A 集合場所も連絡方法も、どちらも決めている。
- B 集合場所も連絡方法も、どちらも特に決めていない。
- C 集合場所か連絡方法の、どちらかだけを決めている。

3. 東日本大震災のように、大災害時にあなたの家族が被災するのと同様に、自治体なども被災し、すぐには公的機関からの救援が望めない場合があります。
あなたの家庭では、災害に備えて水や食料などの非常品を用意していますか？



4. 近年、大地震や記録的な大雨・台風による被害が多発しています。あなたは、自分の住んでいる地域で、大地震や風水害が起こるのではないかと不安を感じていますか？



5. 本日の講座についての感想を書いてください。(主な回答)

- ・ハザードマップの見方、使い方を学ぶことは、自分の身を守ることに重要な情報、とても良い経験をした。
- ・ハザードマップの活用方法を知ることができて、とても役に立った。今後、自分の家の近くの地盤も調べてみたい。
- ・ハザードマップを見て、自分の地域は安全であるということは知っているが、念のため家具の固定や、家の強度も考えていきたい。
- ・ハザードマップは、主に地盤の様子や自分の住んでいる地域での災害規模に応じてどんな行動をとればいいのか分かる便利なマップ。今後 1 人暮らしをする時に有効活用したい。
- ・ハザードマップの使い方の視野が広がった。特に、地域のハザードマップを見て危険が及ばない所に家を建築するという考え方は、将来とても重要になると思う。
- ・自分の災害への意識が薄かったと認識。
日本に住む以上、災害の危険性はなくならないので、常日頃から災害への備えを忘れないようにしたい。
- ・避難後の生活を考えていなかったのも、考える良いきっかけとなった。
- ・災害が起こり避難することについて、考えさせられた。
- ・自宅が川（海）の近くなので、津波の危険性も考えたい。
津波は海からだけでなく、道の横からもやってくる。
- ・日本に住んでいる限り、自然災害と隣り合わせ。常に最悪のことを考えて行動する。
- ・避難することは避難所に逃げるのではなく、身の安全を確保できる場所を探すこと。最悪を想定して避難することだ。
- ・まずは自分の命を守ること、自助、互助、共助、公助、お互いが支え合い、寄り添うことが大切であることを学んだ。
- ・煙体験がとてもリアルで、こんなにも前が見えないのかと思った。
- ・南海トラフ地震で被災する可能性のある地域に住んでおり、海にも近いので、親との連絡方法を確認し、起きた時の最悪な状況を想定しておこうと思った。
- ・以前、台風で数週間停電する等の経験をして、対策はしていたが、まだ足りていないと実感した。今後はより危機感をもって準備をしたい。
- ・それぞれの災害対応、応急処置など、ネットの情報を利用したりしてもっと調べよう、勉強しよう。
- ・「空振りはいいが、見のがしは許されない」という言葉が印象的。
- ・能登半島地震を他人事と思わず、自分の事として考えていきたい。
- ・学校や家での対策はできているが、それ以外のところで被災したらと思うと不安。
- ・煙体験が想定以上で驚いた。貴重な体験をした。
- ・東日本大震災を福島で体験し津波も生で見たため、震度 3. 4 でもとても怖くトラウマだった。今日の講座を受けて震災が起きたら安全に急がず行動しようと思った。
- ・小さな災害でも油断できないと思った。
- ・家で防災係をしているので、足りない物資や危険個所の確認などを再確認しなければならないと思った。
- ・煙体験、思ったより前が見えなかった。